

事務事業評価調書

担当課	産業観光部	観光課	観光振興担当係	事務事業No.	17132	
事務事業名	観光誘客宣伝事業					
計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	56~58
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	国内外の誘客キャンペーンやホームページ等からの情報発信を通じて観光誘客の促進を行うとともに、イベント開催支援によって魅力ある観光地づくりを進め、当市の主要産業の一つである観光振興を図る。			魅力ある観光地づくりを進め、リピーターの獲得などによる国内外からの外貨の獲得、おもてなしの心で観光客を迎える魅力ある観光地づくり		
主な業務内容	他団体など官・民が連携した誘客キャンペーンや商談会等への参加や、アルペンルート佐々成政武者行列及び夜の黒部ダムと星空観賞会並びに霊松寺のライトアップ事業等のイベント開催支援					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	38,673,832	円
	財源内訳	特定財源	-	円	-	円	4,863,900	円
一般財源		-	円	-	円	33,809,932	円	

活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	市観光協会案内（窓口・電話）	件	24,219	27,292	25,264	27,500	91.9%	28,000
②	誘客宣伝活動	人工	64	68	74	70	105.7%	75
③								

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	観光入込客数	千人	2,773	2,838	2,144	2,850	75.2%
②	観光消費額	億円	117	122	115	123	93.5%	120
③								

2. 数値で表せない効果（指標①）	

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	普通	高い	一部重複	普通			
点数	3	2	3	2	2	3		18		

評価理由	観光誘客キャンペーン及び商談会を通じ、国内外からの集客に向けた取り組みを行っている。紙媒体の観光宣伝から、情報発信のコンテンツはWEB、SNSなどに移行していることから、タイムリーな情報発信に努めていくことが必要となる。
------	--

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>当事業で実施する宣伝誘客事業は、不特定多数に対するパンフ配布を含む情報発信（キャンペーン等）やイベント開催となっているが、現在の情報収集の主流はWEB、SNSに移行しているため、ウェイトの見直しを継続して実施が必要。</p> <p>顧客データ分析やマーケティングが不足しているため、ターゲットが漠然としており、事業成果を効果的に検証する手法がない。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
顧客データ取得、データ解析、マーケティング手法、担当組織を立ち上げるとともに、観光団体の統廃合や組織改編による効率的な情報発信、誘客宣伝、観光ガイド要請や体験メニュー整備等受け入れ態勢を整備する。

事務事業評価調査

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	17133	
事務事業名	観光資源活用事業					
会計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	56~58
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	市民や観光客が利用する観光課所管の公共施設の適切な維持管理や恵まれた温泉資源の環境整備などの支援			観光課所管の公共施設を適切に管理するため、管理業務の委託や清掃業務委託などにより環境美化等に努める。また、各温泉事業を実施する団体への支援を行う。		
主な業務内容	観光施設の維持管理、修繕等 ○観光課管理の公衆便所の維持管理（光熱水費、修繕、汲取り、清掃業務委託、浄化槽点検業務委託など） ○流鏝馬会館管理運営業務委託 来館者数4,028人 温泉事業団体への活動支援（負担金） ○大田市温泉地連絡協議会事業への支援 ○大北温泉協会事業への支援					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	15,331,761	円	
	財源内訳	特定財源	-	円	-	円	410,155	円	
一般財源		-	円	-	円	14,921,606	円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	管理施設	箇所	7	7	8	8	100.0%	8
	②	公衆トイレ	箇所	17	17	18	18	100.0%	18
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	修繕箇所	箇所	9	12	1	8	12.5%	8
	②								
③									
2. 数値で表せない効果（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	高い	普通	一部重複	普通	適正である			
	点数	3	3	2	2	2	3	継続	15	
									18	
評価理由		観光課が所管する公衆便所は、市民をはじめ観光客が利用する施設であり、清潔で快適に利用できるよう、清掃や維持管理修繕等が必要となる。また、各温泉事業団体の適切な活動の支援により、温泉地の魅力の発信や適切な維持管理に貢献している。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） 大田市公共施設等総合管理計画との整合性を図った個別施設計画の作成による整備・修繕などを計画的に実行する必要があるが、公衆トイレの維持管理については、観光課、生活環境課で二課で管理している状況である。過去の調整会議経過もあるが、事業効率を図るため一元管理が望ましい。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容） 緊急性や有効性などの優先度を把握する中から、観光施設の計画的な改修を行い、財源については補助事業や有利な起債等の活用を努める。

事務事業評価調査

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	17134	
事務事業名	2次交通対策事業					
会計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	56~58
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	国内外の観光客が観光拠点への移手段として2次交通の整備など充実を図る			市内の観光拠点をはじめ、広域的な観光周遊を行える手段として2次交通を充実させ、観光消費額の増大による地域振興と活性化を目指す。		
主な業務内容	滞在型周遊型の観光誘客に取組むことで観光入込数を増やし観光消費額増加につなげる。 周遊バス「ぐるりん号の運行」、三市村2次交通事業（アルペンライナー及び北陸新幹線対策シャトルバス）運行支援、松本空港シャトル便運行支援					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）			-	円	-	円	14,584,934
財源内訳	特定財源		-	円	-	円	0	円
	一般財源		-	円	-	円	14,584,934	円

活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	ぐるりん号利用者数	人	1,391	2,139	1,745	-	-	1,500
②	アルペンライナー利用者数	人	1,253	1,050	515	-	-	1,000
③	北陸新幹線対策シャトル利用者数	人	1,393	2,436	1,768	-	-	1,800

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
①	観光入込客数	千人	2,773	2,838	2,144	2,850	75.2%	2,000
②	観光消費額	億円	117	122	115	123	93.5%	120
	2. 数値で表せない効果（指標①）							

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	普通	高い	一部重複	高い	改善の余地あり			
点数	3	2	3	2	3	2	18			
評価理由	滞在型周遊観光の充実を図るべく事業として必要性はたかく、観光拠点などへのアクセス手段を確保をすることにより、入込客数の増加、観光消費額増加に寄与している。 二次交通の利用者数は年により増減があるものの、利用者数は増加傾向にある。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
市内及び広域連携の二次交通の整備・拡大が課題である。市域では周遊バス「信濃おおまちぐるりん号」の更なる誘客に向けた事業の展開が必要。広域的な二次交通の運行支援として行っている「信州まつもと空港シャトル便」及び「北陸新幹線対策シャトルバス」の利便性の向上などが課題である。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
市域の周遊バス「信濃おおまちぐるりん号」は東コースと南コースの2コースを設定し運行を行っている。東コースについては、今年度鷹狩山頂まで延長し運行を実施している。観光スポットのひとつである仁科三湖エリアへのアクセスとしてコース選定を今後行う必要がある。

事務事業評価調査

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	17135	
事務事業名	仁科三湖振興事業					
会計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	56~58 頁
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~ 頁	
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	観光課が所管する仁科三湖周辺の観光施設の維持管理及び観光振興を図る			観光施設の適切な維持管理のために、施設改修・更新を計画的に実施する。特に大田市アミューズメントハウスについては、指定管理者制度を導入して経費の削減を図ると共に、民間による創意工夫に基づいた利用者の拡大に努める		
主な業務内容	観光施設及び温泉管の維持管理、修繕等 指定管理：大田市アミューズメントハウス 修繕：大田市アミューズメントハウス 塩素注入器修繕（井戸汲上倉庫内及びプール棟ジャグジー）、 プール凝集剤注入器修繕、男子トイレ床タイル修繕					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	38,944,405	円	
	財源内訳	特定財源	-	円	-	円	169,480	円	
一般財源		-	円	-	円	38,774,925	円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	仁科三湖周辺管理施設	箇所	7	7	7	7	100.0%	7
	②								
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	大田市アミューズメントハウス利用数	人	37,175	35,692	32,701	-	-	35,000
	②	仁科三湖入込客数	人	734,300	729,500	731,400	-	-	740,000
	③								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	高い	普通	一部重複	普通	適正である			
	点数	3	3	2	2	2	3			15
								継続		18
評価理由	仁科三湖周辺は、キャンプや釣り、カヌーやボートなど、アウトドアアクティビティを楽しめる魅力ある観光地域であり、今後も環境整備を継続していく必要がある。また、ゆ〜ぶる木崎湖は木崎湖周辺の観光拠点施設としての位置づけであるとともに、健康増進施設として利用者も多い状況である。施設の運営は、指定管理者による管理運営を行うとともに、安全面において必要な修繕等を行うなど適切な維持管理に努めている。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
仁科周辺の観光振興に寄与する観光施設の適切な維持管理は、訪れる観光客が気持ちよく利用できる状態を保つ必要がある。大田市アミューズメントハウスは建設後24年が経過しており、建物躯体を始め温水配管や機械設備など点検の実施及び計画的な修繕等を実施していきたい。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
大田市アミューズメントハウスの給水管は、計画的な改修が必要なため実施計画に反映した事業実施に努める。また、指定管理者制度導入により、民間活力を利用しながら利用者のニーズ把握に努め、可能な範囲で要望を取り入れた施設整備・運営を図っていく。 仁科三湖周辺エリアの観光振興については、地元観光団体や観光事業者、さらに地域住民などと意見交換など実施し、必要な施策を検討していく。

事務事業評価調書

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理・観光振興担当係	事務事業No.	17136	
事務事業名	広域観光推進事業					
計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	56~58
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）			
	団体等が実施するプロモーション事業、情報発信事業、受入体制事業、二次交通事業などに対する支援を行う。		誘客キャンペーンやパンフレット等の作成による情報発信、旅行商品造成促進による誘客や広域観光拠点をつなぐ二次交通の整備など、広域観光の推進に取り組む。			
主な業務内容	各団体が計画、実施する広域的な観光事業への支援 【負担金】 大糸線ゆづり浪漫委員会負担金、北アルプス地域旅行商品造成促進事業負担金、信州まつもと空港地元利用促進協議会負担金、北アルプス日本海広域観光連携会議負担金、日本アルプス観光連盟負担金、（一社）長野県観光機構年会費、（一社）長野県観光機構学習旅行誘致推進事業負担金、立山黒部観光宣伝協議会負担金、三市村観光連絡会負担金、長野県国際観光推進協議会負担金 など					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	9,039,400	円
財源内訳	特定財源	-	円	-	円	957,000	円	
	一般財源	-	円	-	円	8,082,400	円	
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	誘客イベント	回数	-	-	29	-	-
	②							
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	①	団体事業						
	②							
	③							
2. 数値で表せない効果		（指標①）各団体において計画・実施された事業において、広域的な観光誘客活動への支援 ・広域観光パンフレット「大糸線の旅」（夏・秋・春共に82,000部作成） ・北アルプス地域旅行商品造成促進事業（信州松本空港利用414人、初夏及び秋季・冬季ツアー840人）						

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	普通	高い	一部重複	普通			
点数	3	2	3	2	2	3	18			
評価理由	団体が実施する事業支援であり、二次交通手段の確保、広域的な観光パンフレット作成、誘客キャンペーンや旅行商品造成などの支援を行い、広域的な観光誘客事業を行っている。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） 通過型の観光から、滞在型の観光への転換の促進を図るべく、広域的な観光誘客事業を展開し、広域連携を含めた観光資源を結ぶ観光ルートの定着化により滞在日数を増やすなど、各団体が実施する事業へ支援を行う。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容） 各団体が計画する事業展開について、戦略的に広域的な観光誘客につながるよう、事業の継続や新たな誘客宣伝事業や二次交通手段の確保など進めていく。

事務事業評価調査

担当課	産業観光部	観光課	観光振興担当係	事務事業No.	17137	
事務事業名	インバウンド推進事業					
会計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画登載頁	56~58 頁
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	東アジア、東南アジアをターゲットとする戦略的な誘客促進を図るとともに、外国人観光客の関心を喚起する新たな観光資源の発掘			本市の魅力ある観光資源の情報を積極的に国外に発信し、滞在型周遊型の観光誘客に取組み、外国人観光客の入込数の増及び観光消費額増加につなげる。		
主な業務内容	周辺自治体等と連携した広域観光の推進を実施し、インバウンド事業として東アジア（台湾、韓国、香港）を中心にASEANに誘客活動を行い、市内での文化体験ができるカルチャープログラム事業等を展開する。また、移動手段のひとつである二次交通などの公共交通機関の乗換案内や時刻案内などを、外国語で表示するデジタルサイネージシステムの構築を行う。					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	14,658,140	円	
	財源内訳	特定財源	-	円	-	円	686,000	円	
一般財源		-	円	-	円	13,972,140	円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	デジタルサイネージ導入	箇所	-	-	3	-	-	3
	②	海外セールス	箇所	2	2	4	-	-	5
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	外国人宿泊者数	人	43,278	41,402	38,111	-	-	40,000
	②								
③									
2. 数値で表せない効果（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	普通	高い	一部重複	普通	適正である			
	点数	3	2	3	2	2	3	継続	15	
									18	
評価理由		広域連携によるDMO組織を活用した外国人誘客事業を展開するとともに、市内の主要施設へ外国語に対応した情報発信システムを構築し、外国人観光客への誘導等を行う。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） 当市への訪日客はここ数年順調に増加していたが、日韓情勢や新型コロナウイルス感染症の影響などから、入込数については大幅に落ち込んでいる。
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容） 訪日客の主力である台湾、韓国、香港、タイからの集客を目的とする事業を強化するとともに、海外セールスにおいては、団体向けの商談会セールスだけでなく、個人客獲得のための事業展開を強化する。新型コロナウイルス感染症の今後の状況を注視していく必要がある。

事務事業評価調書

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	17138	
事務事業名	山岳観光推進事業					
会計	一般会計	款	7	項	1	
				目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	56~58
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	登山道改修への支援、高瀬渓谷の誘客促進、大田市扇沢総合案内センター開設業務、東山エリアの観光整備など山岳観光の振興を図る。			山岳関係者と協議し登山道の重点整備箇所を選定し整備・改修を行うとともに、安全で良好な登山道の維持管理に努める。立山黒部アルペンルートの長野県側の玄関口にある扇沢総合案内センターの運営。		
主な業務内容	登山道整備箇所 竹村新道登山道整備、フナ立尾根登山道整備、伊藤新道登山道整備、針ノ木登山道整備、白沢登山道整備 扇沢総合案内センターの運営、壺松寺公衆便所建設工事、各団体事業への支援					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	35,654,525	円	
	財源内訳	特定財源	-	円	-	円	27,637,146	円	
一般財源		-	円	-	円	8,017,379	円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	登山道整備箇所	箇所	4	4	5	3	166.7%	3
	②								
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	登山者数	人	83,000	89,900	94,500	80,000	118.1%	40,000
	②	東山観光客入込数	人	114,600	135,200	147,700	-		130,000
	③								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	普通	普通	重複あり	普通	適正である			
	点数	3	2	2	1	2	3		やり方改善	13 — 18
評価理由	登山道の整備については、荒廃を防ぐため山小屋経営者と連携し改修を行うことで、増加する中高年をはじめとする登山者全般の安全を確保するために必要である。 大田市東山周辺地域観光整備計画に基づき、老朽化していた壺松寺の公衆便所の建設を実施									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>現在は山小屋関係者と連携して登山道改修の支援を行っているが、今後、国・県の補助事業等を活用した登山道整備が課題である。</p> <p>H30年7月の集中豪雨で高瀬渓谷の晴嵐荘手前吊橋（登山道の一部であるが、民間により設置された）が崩落している。令和2年度に県・市補助金を活用し河川敷に仮橋を設置する計画であり関係機関等の調整が必要である。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>年々登山客の入込が増加傾向であり、客層も老若男女と幅広い方々が訪れるため、登山者の安全を考慮した整備が望まれる。また、県や国の補助金等の活用を図り、より充実した山岳環境の整備を推進する。</p> <p>H30年7月の集中豪雨で被害を受けた高瀬渓谷については、東日本大震災での原子力発電事故補償による社会的制裁事情が重くのしかかる状況ではあるが、過去の水力発電開発経過からの補償観点もあるので、東京電力ホールディングス㈱との協議が必要。また、大規模水害による高瀬川流路も大きく変化し、今後の登山道の維持と登山者の安全確保のため直轄整備について、環境省、農林水産省（林野庁）への要望活動を継続していく。</p>

事務事業評価調査

担当課	産業観光部	観光課	庶務管理係	事務事業No.	17139	
事務事業名	着地観光充実事業					
会計	一般会計	款	7	項	1	
目	3	目	3	目	3	
総合計画	まちづくりのテーマ	第2節 活力あふれる産業と地域の魅力を活かしたにぎわいのあるまち			前期計画掲載頁	頁
	施策目標	観光を主体に国内外からひとを呼び込む交流の促進				
	施策項目	“welcome おおまち” 魅力ある観光地づくりの推進				
個別計画	大田市観光振興計画、大田市東山周辺地域観光整備計画				13~	頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）		
	観光客の増大等の観光振興を図るため、市観光協会など観光関係者と連携し誘客宣伝事業を実施。			窓口やHPなどによる観光案内や観光情報の発信、また安心して安全な旅のサポートや滞在現地における行動を支援するためのWi-Fi環境の活用による情報発信を行う。		
主な業務内容	本市の魅力ある観光資源の情報を積極的に国内外に発信するため、観光パンフレット等の印刷物やホームページのリニューアルを実施した「信濃大町なび」からの情報発信など観光案内や宣伝等の充実や観光関係団体などが行う事業との連携など行う市観光協会への支援事業。 スポット的に環境整備を行ったWi-Fiエリアの維持管理事業や観光案内看板の付替えなど、滞在者への観光誘導整備などを実施。					

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	総事業費（決算額）		-	円	-	円	35,002,337	円	
	財源内訳	特定財源	-	円	-	円	1,114,214	円	
一般財源		-	円	-	円	33,888,123	円		
活動指標			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	市観光協会案内（窓口）	件	24,219	27,292	25,264	27,500	91.9%	27,500
	②								
③									
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度（R1）	達成率	次年度（R2）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	観光入込客数	千人	2,773	2,838	2,144	2,850	75.2%	2,000
	②	観光消費額	億円	117	122	115	123	93.5%	120
	③								
2. 数値で表せない効果（指標①）									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		高い	普通	高い	一部重複	高い	適正である			
	点数	3	2	3	2	3	3	継続	16	
									18	
評価理由		当市を訪れる観光客や市民が様々な情報を携帯端末などから簡単に受取れるスポット的なWi-Fi環境を構築し利活用いただいている。また、市観光協会においては、観光パンフレットの作成やHPのリニューアルなど観光宣伝事業に取り組んでおり、市においては事業支援を行っている。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
不特定多数に対する観光パンフレットの配布を含む情報発信を積極的に行うが、現在の情報収集の主流はWEB、SNSに移行している。観光協会は任意団体組織であるため、法人化に向け準備を進めている。
改善の方法等（上記の課題をふまへ次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
当市の基幹産業の一つである観光事業について、継続して観光誘客宣伝に取り組む必要がある。また、観光協会組織は現在任意団体であることから、観光団体の統廃合など組織全体の見直しや、組織の法人化に取り組み体制強化をはじめ、協会のあり方や役割分担を検討する。新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客の入込客数が激減することが予想されることから、観光マッチング商談会など開催し市内の観光スポット等と連携した着地商品の開発・磨き上げを行う。